

# 高岡地区事業所 景況レポート

2024年1～3月期

このレポートは高岡市内201社、射水市19社、その他3社の合計223社について景気の現況と見通しを調査したものです。  
(回答194社、87.0%)

今期(2024年1～3月期)実績、来期(2024年4～6月期)見通し



今期(1～3月)は、能登半島地震の影響による消費の低迷や一部生産活動の落込みにより、ほとんどの業種で売上額・売上数量・収益ともに前期を大幅に下回る結果となった。

来期(4～6月)については、消費および生産活動の回復や震災からの復旧復興に伴う建設関連需要、不動産取引等の拡大により売上額・売上数量では持ち直しが見込まれる一方、原材料高や人件費等の増加を吸収しきれず、収益では今期より低下を予想する業種も見られる。

## ◇概況

2024年2月の有効求人倍率は、全国平均1.26倍で前月比0.01ポイント低下(富山県は1.41倍で前月比0.02ポイント低下)。一方、3月の国内企業物価指数(速報値)は前月比+0.2%、前年比では+0.8%となり、前年比の伸び率は2カ月連続で前月の伸び率を上回った。

当庫の調査においては、今期(1～3月)の景況感(D.I.)は、前期における予想のとおり、売上、収益ともに大幅な低下となった。

来期(4～6月)については、売上、収益ともに若干上昇する見通しとしている。

令和6年1月～3月期の日経平均株価は、日米の金利差拡大による円安の進行や米国株価の上昇などにより、期間を通して上昇基調が続き、2月下旬にバブル期の史上最高値38,915円を34年ぶりに更新した後、3月には40,000円を超え、40,369円で引けた。

## 【日経平均株価】

(単位：円)

	最高	最低
1月	36,546	33,288
2月	39,239	36,011
3月	40,888	38,695

## ◇業況

今期(1～3月期)の全業種の業況(前年同期と比較した増減率の平均)は、売上額▲2.8%、売上数量▲2.3%、収益が▲3.1%となり、前期(10～12月期)との比較においては、売上額、売上数量、収益ともに減少した。

また、今期における全業種平均での売上額D.I.は、前期より27.7ポイント低下の▲28.9と12期ぶりの低水準となり、収益D.I.も31.3ポイント低下の▲29.0と4期ぶりの低水準となった。

来期(4～6月期)見通しの全業種平均のD.I.は、売上額で今期より9.7ポイント上昇し▲19.2を予想、収益では今期より3.2ポイント上昇の▲25.8を予想している。

	5%以内		-5%以内
	10%以内		-10%以内
	20%以内		-20%以内
	20%超		-20%超

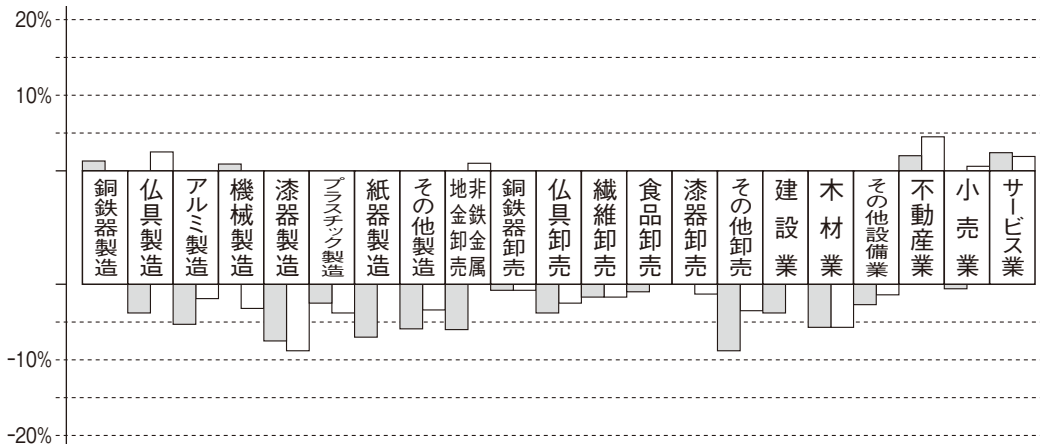
## 景況天気図(売上額、数量、収益)

業種		1～3月期 実績	4～6月期 見通し
製 造 業	全 体		
	全 般		
	一般銅鉄器		
	仏 具		
	ア ル ミ		
	機 械		
	漆 器		
	プラスチック		
	紙 器		
	その他製造業		
卸 売 業	全 般		
	非鉄金属地金		
	銅 鉄 器		
	仏 具		
	織 維		
	食 品		
	漆 器		
その他卸売業			
設 備 関 係 業	全 般		
	建 設		
	木 材		
	その他設備業		
不 動 産 業			
小 売 業			
サ ー ビ ス 業			

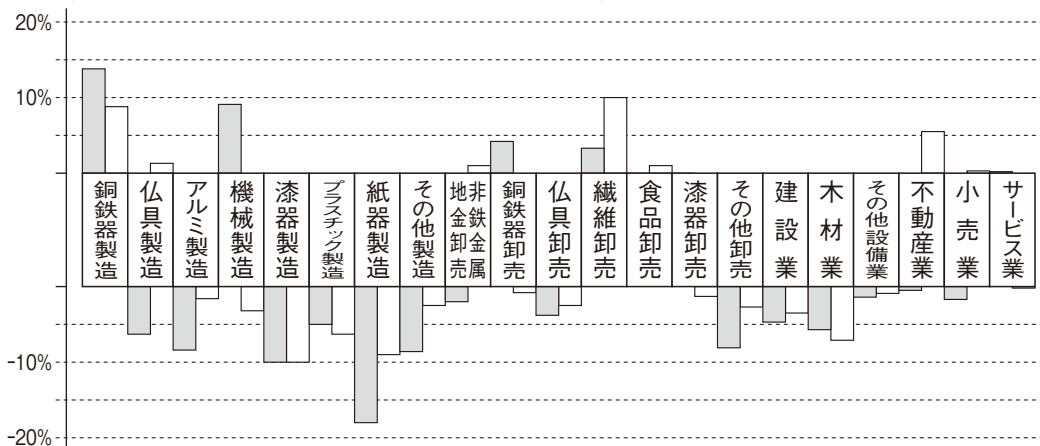
# 1. 全業種総合

## 売上額と収益の現状及び見通し(対前年同期比増加率)

〔売上額の現状 (2024年1月～3月) 〕  
 〔売上額の見通し(2024年4月～6月) 〕



〔収益の現状 (2024年1月～3月) 〕  
 〔収益の見通し(2024年4月～6月) 〕



## 売上額と収益の推移(対前期比)

〔売上額(受注額)〕

(%)

	2023年	2023年	2023年	2024年1月～3月		2024年4月
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	見通し	実績	～6月予想
増 加	35.3	35.8	35.1	17.5	23.9	20.2
変わらず	26.5	22.6	28.6	37.3	23.3	40.4
減 少	38.2	41.6	36.3	45.2	52.8	39.4
〔増加〕-〔減少〕	▲ 2.9	▲ 5.8	▲ 1.2	▲27.7	▲28.9	▲19.2

〔収 益〕

(%)

	2023年	2023年	2023年	2024年1月～3月		2024年4月
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	見通し	実績	～6月予想
増 加	24.3	26.8	35.3	19.3	19.2	14.2
変わらず	34.3	29.8	31.7	34.3	32.6	45.8
減 少	41.4	43.4	33.0	46.4	48.2	40.0
〔増加〕-〔減少〕	▲17.1	▲16.6	2.3	▲27.1	▲29.0	▲25.8

◇売上額D.I.（「増加」－「減少」の社数構成比）

今期（1～3月期）の全業種総合の売上額D.I.は、▲28.9となり、前期（10～12月期）に比べ27.7ポイント低下。来期（4～6月期）についてのD.I.は、▲19.2となり、今期に比べ9.7ポイントの上昇を予想している。

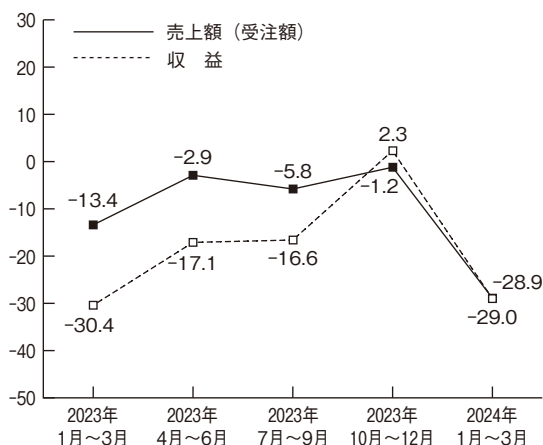
◇収益D.I.（「増加」－「減少」の社数構成比）

今期（1～3月期）の全業種総合の収益D.I.は、▲29.0となり、前期（10～12月期）に比べ31.3ポイントの低下。来期（4～6月期）についてのD.I.は、▲25.8となり、今期に比べ3.2ポイントの上昇を予想している。

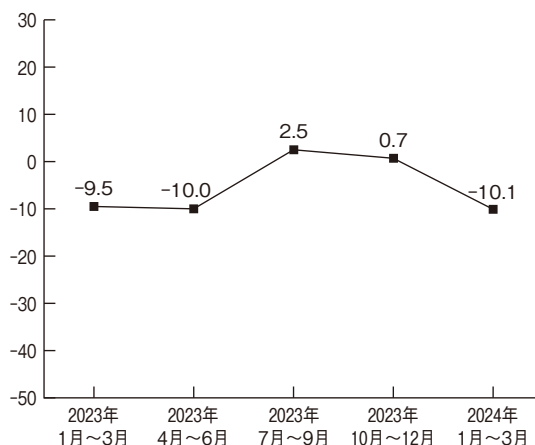
◇在庫数量D.I.（「増加」－「減少」の社数構成比）

今期（1～3月期）の全業種総合の在庫数量D.I.は、▲10.1となり、前期（10～12月期）に比べ10.8ポイントの低下となった。来期（4～6月期）についてのD.I.は、▲11.8となり、今期に比べさらに1.7ポイントの低下を予想している。

〔売上額 収益D.I.推移表〕



〔在庫数量D.I.推移表〕



〔資金繰り〕

(%)

今期順位	項目	構成ウェイト	
		今期	前期
1	変わらず	73.6	73.0
2	やや苦しい	17.6	13.8
3	やや楽	5.2	9.6
4	苦しい	2.1	2.4
5	楽	1.5	1.2

〔経営上の問題点〕

(%)

今期順位	項目	構成ウェイト	
		今期	前期
1	売上・受注の停滞・減少	28.4	25.8
2	原(材)料価格の上昇	12.5	11.2
3	人手不足	10.2	11.4
4	販売価格の伸び悩み	8.2	5.6
5	人件費の増加	6.1	6.6

【訂正】 前回発行の景況レポートにおいて、経営上の問題点の5位を「販売価格の伸び悩み 6.6(%)」と記載していましたが、正しくは「人件費の増加 6.6(%)」でした。訂正しお詫びいたします。

## 2. 製造業

◇概況

製造業全般における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額▲4.1%、売上数量▲3.2%、収益▲4.9%となった。前期比では、売上額で2.6ポイントの低下、売上数量で0.4ポイントの低下、収益で3.8ポイントの低下となった。

製造業の内、銅鉄器、機械が売上額、売上数量、収益ともに前年同期比で増加し、対前期比では、機械のみが売上額、売上数量、収益ともに増加した。

今期の製造業全般における売上額D.I.は、前期より36.9ポイントと大幅に低下し▲38.5、収益D.I.も、49.0ポイント低下し▲44.2となり、2021(令和3)年1～3月期以来の低水準となった。

来期見通しのD.I.は、売上額で今期より14.1ポイント上昇し▲24.4を予想、収益においても、今期より21.1ポイント上昇し▲23.1を予想している。

経営上の問題点については、「売上・受注の停滞・減少」との回答が前期より5.4ポイント増加の33.5%と最も多く、次いで「原(材)料価格の上昇」が前期比1.8ポイント増加の14.0%であった。

現 状	見 通 し

**(銅鉄器)**

銅鉄器製造における売上額D.I.は、前期に比べ50ポイント低下し▲25.0、収益D.I.も、50.0ポイント低下し▲25.0となった。

来期についてのD.I.は、売上額で25.0ポイント上昇の0.0、収益は今期と変わらず▲25.0を予想している。

在庫水準は、適正、多い、やや多い、やや少ないがいずれも25.0%であった。

**(仏具)**

仏具製造における売上額D.I.は、▲50.0と前期に比べ25.0ポイント上昇したが、収益D.I.は、50.0ポイント低下し▲75.0であった。

来期についてのD.I.は、売上額で25.0ポイント上昇の▲25.0、収益も41.7ポイント上昇し▲33.3を予想している。

在庫水準は、適正が50.0%、やや少ないが50.0%であった。

**(アルミ)**

アルミ製造における売上額D.I.は、前期に比べ50.4ポイントと大幅に低下し▲43.9、収益D.I.も前期に比べ24.6ポイント低下の▲31.3となった。

来期についてのD.I.は、売上額で▲31.3、収益も▲18.8と今期比10ポイント超の上昇を予想している。

在庫水準は、適正が60.0%、多いとやや多いが13.3%、やや少ないが13.4%との回答であった。

**(機械)**

機械製造における売上額D.I.は、前期に比べ15.2ポイント上昇し▲18.2、収益D.I.も前期に比べ11.1ポイント上昇し0.0となった。

来期についてのD.I.は、売上額は今期と変わらず▲18.2、収益では27.3ポイント低下の▲27.3を予想している。

在庫水準は、適正が50.0%、やや多いが30.0%、多い、少ないが10.0%との回答であった。

**(漆器)**

漆器製造における売上額D.I.は、前期に比べ25.0ポイント低下し▲25.0、収益D.I.も50.0ポイント低下し▲50.0となった。

来期についてのD.I.は、売上額は今期比25.0ポイント上昇の0.0、収益でも25.0ポイント上昇し▲25.0を予想している。

在庫水準は、適正が75.0%、少ないが25.0%との回答であった。

**(プラスチック)**

プラスチック製造における売上額D.I.は、前期に比べ91.6ポイントと大幅に低下し▲75.0、収益D.I.も前期に比べ74.9ポイント低下し▲75.0となり、2020（令和2）年4～6月期と同様の低水準となった。

来期についてのD.I.は、売上額では0.0、収益でも0.0と今期に比べ大幅な上昇を予想し改善が見込まれる。

在庫水準は、適正、やや多いがいずれも50.0%であった。

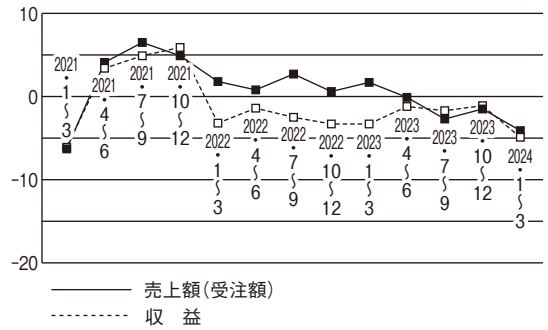
**(紙器)**

紙器製造における売上額D.I.は、前期に比べ95.0ポイントと大幅に低下し▲20.0と7期ぶりのマイナス、収益D.I.も前期比110.0ポイント低下の▲60.0であった。

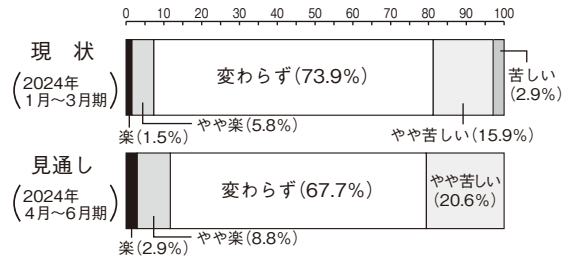
来期についてのD.I.は、売上額でさらに低下の▲60.0、収益では20ポイント上昇の▲40.0を予想している。

在庫水準は、やや多いが60.0%、適正、やや少ないが20.0%であった。

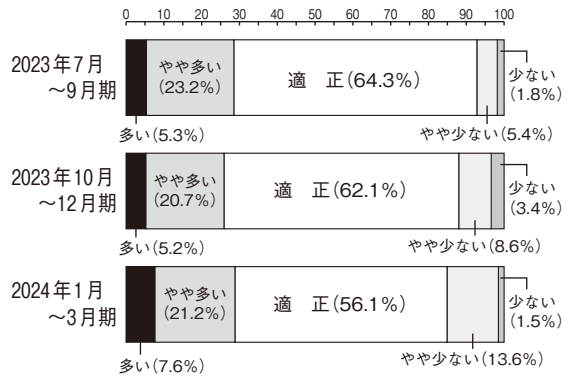
**〔売上額、収益の動き(対前年同期比)〕**



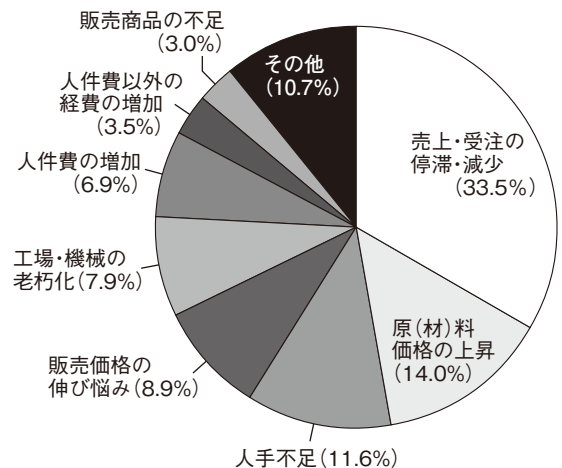
**〔資金繰りの現状と見通し〕**



**〔手持ち在庫の動き〕**



**〔経営上の問題点〕**



### 3. 卸売業

現 状	見 通 し

#### ◇概況

卸売業全般における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額▲4.4%、売上数量▲4.4%、収益▲2.4%となった。前期比では、売上額で4.9ポイント減少、売上数量で4.7ポイント減少、収益では2.1ポイントの減少となり、売上額、売上数量は前期から一転しマイナスとなった。

卸売業の内、売上額、売上数量、収益ともに前年同期比で増加した業種は無く、対前期比では、漆器のみが売上額、売上数量、収益ともに増加した。

今期の売上額D.I.は、前期に比べ43.3ポイントと4期ぶりに低下し▲50.0、収益D.I.も前期に比べ8.1ポイント低下し▲15.0となった。

来期についてのD.I.は、売上額で10ポイント上昇の▲40.0、収益では▲41.0とさらに低下を予想している。

経営上の問題点については、売上・受注の停滞・減少が33.3%で最上位であり、次いで原(材)料価格の上昇が11.7%であった。

#### (非鉄金属地金)

非鉄金属地金卸における売上額D.I.は、前期に比べ80.0ポイント低下の▲80.0と4期ぶりのマイナス、収益D.I.も前期に比べ100.0ポイント低下の▲80.0と3期ぶりのマイナスとなった。

来期についてのD.I.は、売上額で▲40.0、収益で▲20.0と今期比上昇を予想している。

経営上の問題点については、原(材)料価格の上昇が27.6%と前期に比べ13.8ポイント増加し最上位であった。

#### (銅鉄器)

銅鉄器卸における売上額D.I.は、▲16.7と前期比50.0ポイント上昇し、収益D.I.も前期比33.3ポイント上昇し▲0.1であった。

来期についてのD.I.は、売上額では▲0.1と今期比16.6ポイント上昇、収益では今期比19.9ポイント低下の▲20.0を予想している。

経営上の問題点については、前期で2番目であった仕入先からの値上げ要請が31.2%と3.4ポイント増加し最上位であった。

#### (仏具)

仏具卸における売上額D.I.は、前期に比べ75.0ポイント低下し▲75.0、収益D.I.も25.0ポイント低下し▲50.0となった。

来期についてのD.I.は、売上額で今期比25.0ポイント上昇の▲50.0、収益も25.0ポイント上昇し▲25.0を予想している。

経営上の問題点については、売上・受注の停滞・減少が52.2%と前期に比べ10.6ポイント増加し最上位であった。

#### (繊維)

繊維卸における売上額D.I.は、前期に比べ66.7ポイント低下し▲100.0、収益D.I.は前期と変わらず▲33.4となった。

来期についてのD.I.は、売上額が今期比33.3ポイント上昇の▲66.7、収益は今期と同じ▲33.4を予想している。

経営上の問題点については、前期同様、売上・受注の停滞・減少が50.0%で最上位であった。

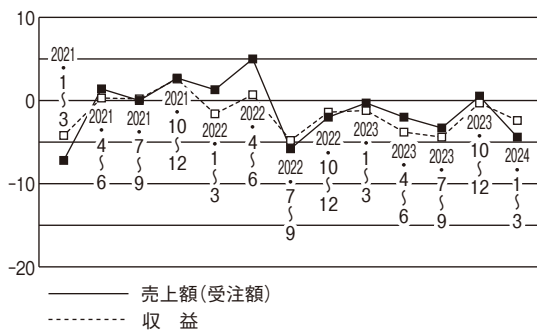
#### (食品)

食品卸における売上額D.I.は、前期に比べ120.0ポイント低下し▲100.0、収益D.I.は前期比10.0ポイント低下の40.0であった。

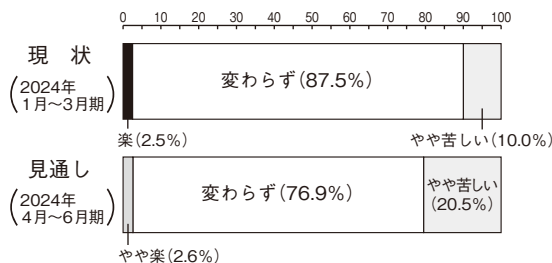
来期についてのD.I.は、売上額で今期比60.0ポイント上昇の▲40.0、収益は今期比80.0ポイント低下の▲40.0を予想している。

経営上の問題点については、売上・受注の停滞・減少が24.1%と最上位であった。

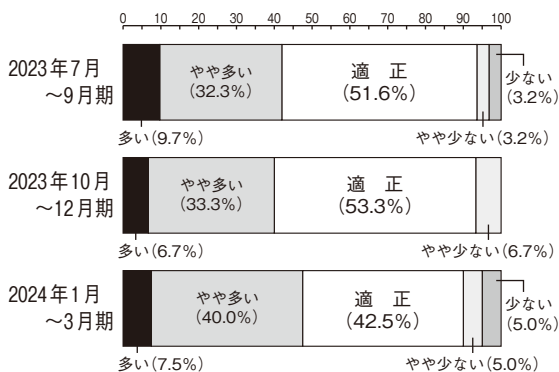
#### 〔売上額、収益の動き(対前年同期比)〕



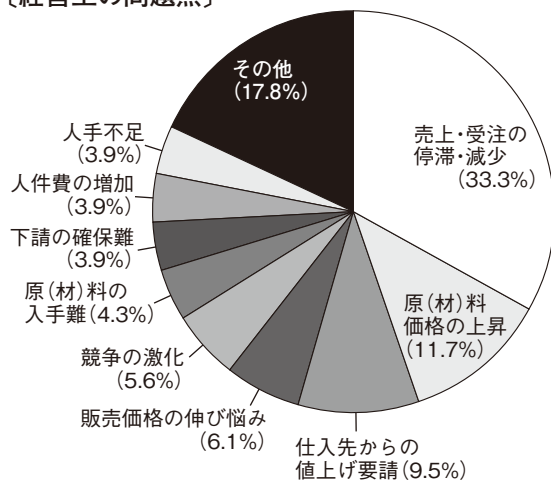
#### 〔資金繰りの現状と見通し〕





#### 〔手持ち在庫の動き〕



#### 〔経営上の問題点〕



## 4. 設備関係業

現 状	見 通 し
	

### ◇概 況

設備関係業全般における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額▲3.9%、売上数量▲2.4%、収益▲3.9%となった。前期比では、売上額で2.0ポイント、収益で2.4ポイントの低下となったが、売上数量では0.2ポイントの増加となった。

設備関係業の内、売上額、売上数量、収益ともに前年同期比で増加した業種は無く、対前期比では、建設のみが売上額、売上数量、収益ともに増加した。

来期は、売上額で2.3ポイント増加し▲1.6%、売上数量で0.5ポイント減少し▲2.9%、収益では0.5ポイント増加し▲3.4%を予想している。

今期の売上額D.I.は、前期に比べ4.3ポイント低下し▲14.3となり、収益D.I.も13.2ポイント低下し▲19.9となった。

来期についてのD.I.は、売上額で▲14.3と今期と変わらず、収益でも▲0.1と若干低下し▲20.0を予想している。

経営上の問題点については、原(材)料価格の上昇と人手不足がいずれも15.8%と最上位であった。

### (建 設)

建設業における売上額D.I.は、前期に比べ21.3ポイント上昇し5.9となり、収益D.I.も前期に比べ17.2ポイント上昇し▲5.9となった。

来期についてのD.I.は、売上額で今期比5.9ポイント上昇の11.8、収益は今期と変わらず▲5.9を予想している。

経営上の問題点については、原(材)料価格の上昇が前期比1.5ポイント増加の22.2%と2期連続で最上位となり、次いで人手不足が16.2%と前期に比べ1.9ポイント増加した。

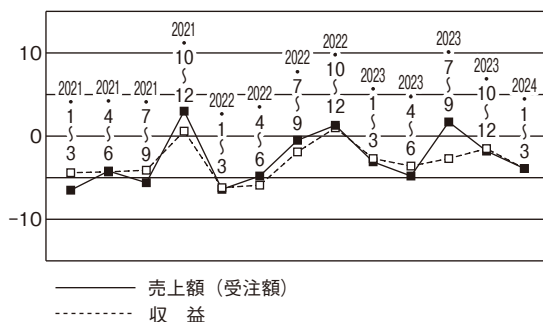
### (木 材)

木材業における売上額D.I.は、前期に比べ57.0ポイント低下し▲57.1、収益D.I.も前期に比べ28.7ポイント低下し▲28.6であった。

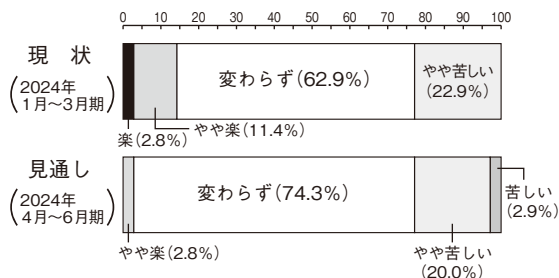
来期についてのD.I.は、売上額で▲42.8と14.3ポイント上昇の一方、収益では14.3ポイント低下の▲42.9を予想している。

経営上の問題点については、売上・受注の停滞・減少が36.6%で最上位、次いで販売価格の伸び悩みが14.6%となり、前期と同順位であった。

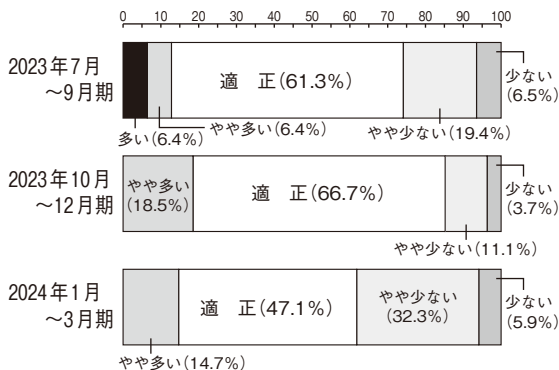
### 〔売上額、収益の動き(対前年同期比)〕



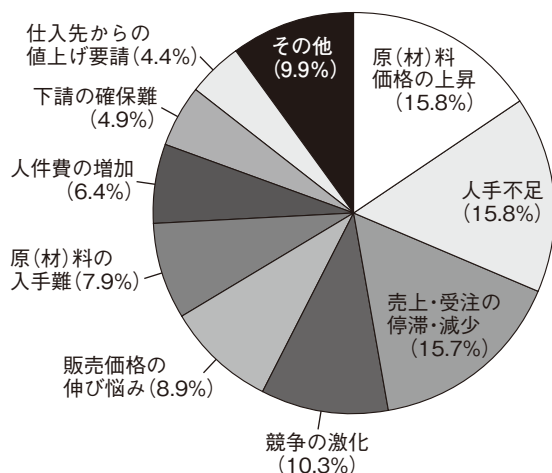
### 〔資金繰りの現状と見通し〕



### 〔手持ち在庫の動き〕



### 〔経営上の問題点〕



[参考]

高岡市、富山市、射水市、砺波市に於ける新設住宅着工戸数

期間	高岡市		富山市		射水市		砺波市	
	総戸数	内、木造	総戸数	内、木造	総戸数	内、木造	総戸数	内、木造
2022年12月 ～ 2023年2月	191	176	461	370	102	78	37	37
2023年3月～5月	174	147	609	527	99	96	52	39
2023年6月～8月	301	196	782	605	94	93	59	58
2023年9月～11月	223	194	563	487	93	74	80	62
2023年12月 ～ 2024年2月	134	132	428	339	60	60	67	47

(富山県庁ホームページより引用)



高岡市に於ける利用関係別新設住宅着工戸数(2023年12月～2024年2月)

( )内は前年同期比

	持家	貸家	給与住宅	分譲住宅	計
一戸建	57 (▲38)	0 (± 0)	1 (+ 1)	23 (+ 1)	81 (▲36)
長屋	2 (+ 2)	41 (▲ 9)	2 (+ 2)	0 (± 0)	45 (▲ 5)
共同住宅	0 (± 0)	8 (▲16)	0 (± 0)	0 (± 0)	8 (▲16)
計	59 (▲36)	49 (▲25)	3 (+ 3)	23 (+ 1)	134 (▲57)

(富山県庁ホームページより引用)

## 5. 不動産業

現 状	見 通 し
	

### ◇概況

不動産業における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額2.0%、売上数量1.5%と5期ぶりのプラスとなったが、収益では前期のプラスから▲0.5%となった。

前期比では、売上額2.6ポイント増加、売上数量2.1ポイント増加、収益では3.0ポイント減少となった。

来期は、売上額で2.5ポイント増加の4.5%、売上数量も3.0ポイント増加の4.5%、収益でも6.0ポイント増加の5.5%を予想している。

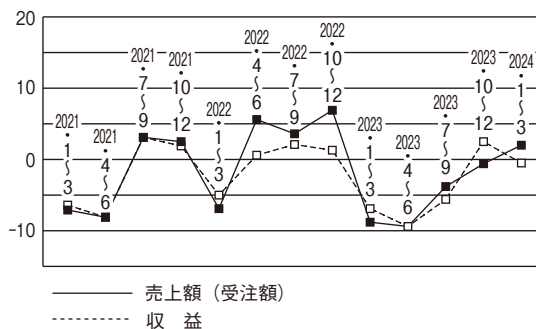
今期の売上額D.I.は、前期に比べ12.5ポイント上昇し0.0となった一方、収益D.I.は10.0ポイント低下の▲10.0となった。

来期についてのD.I.は、売上額で40.0ポイント上昇の40.0、収益でも10.0ポイント上昇の0.0を予想している。

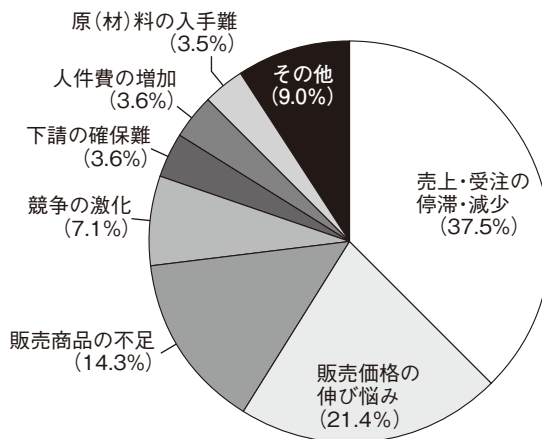
在庫水準については、やや少ないが40.0%、やや多い、適正が30.0%との回答であった。

経営上の問題点については、売上・受注の停滞・減少が前期に比べ12.5ポイント増加し37.5%となり最上位であった。

### [売上額、収益の動き(対前年同期比)]



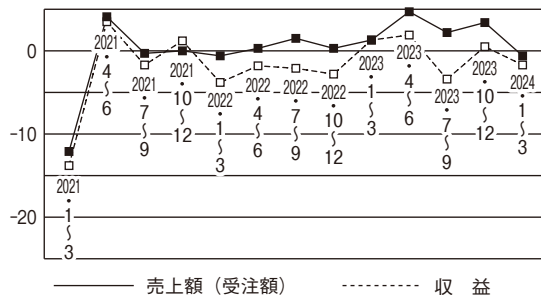
### [経営上の問題点]



## 6. 小売業

〔売上額、収益の動き〕  
(対前年同期比)

現 状	見 通 し



### ◇概況

小売業における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額で▲0.6%、売上数量▲0.8%、収益は▲1.7%となった。前期比では、売上額で4.0ポイント減少、売上数量で2.7ポイント減少、収益では2.2ポイントの減少であった。

来期については、売上額で1.2ポイント増加の0.6%、売上数量で1.1ポイント増加の0.3%、収益でも2.0ポイント増加の0.3%を予想している。

今期の売上額D.I.は、前期比27.8ポイント低下し▲27.8、収益D.I.も前期比44.5ポイント低下し▲44.5となった。

来期についてのD.I.は、売上額で今期比11.1ポイント上昇の▲16.7、収益では今期比9.1ポイント上昇の▲35.4を予想している。

在庫水準は、適正が44.4%、やや多いが38.9%、やや少ないが11.1%、多いが5.6%であった。

経営上の問題点としては前期同様、売上・受注の停滞・減少が28.2%で最上位であった。次いで、仕入先からの値上げ要請が前期に比べ4.2ポイント増加し8.7%であった。

### (自動車)

県内の2024年1~3月(3カ月)の新車登録台数は、各月ともに前年実績を下回り、前年同期間の実績比で78.7%、前期(2023年10~12月)比で95.7%となった。

そのうち、普通・小型乗用車については、3期連続で前期実績を上回ったが、前年同期間の実績比では80.1%(前期比100.9%)となった。

### (軽四自動車)

県内の2024年1~3月(3カ月)の新規登録台数は、メーカーの品質不正問題による出荷停止処分等が大きく影響し、2期連続の前期比減少となり、前年同期間での実績比でも76.1%(前期比91.2%)と大幅な減少となった。一方で、中古車(乗用)は、前年同期間の実績比で118.8%(前期比126.9%)と新車の落込みをカバーする形となった。

### 〔参 考〕

〔自動車：新車登録台数〕

期間	項目	普通乗用	小型乗用
2023年4月~6月		3,469	2,140
7月~9月		3,500	2,263
10月~12月		3,611	2,294
2024年1月~3月		3,936	2,023

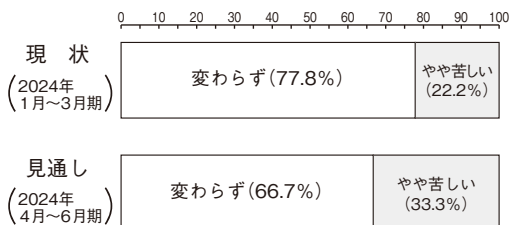
(富山県自動車販売店協会 調べ)

〔軽四自動車：新規検査状況〕

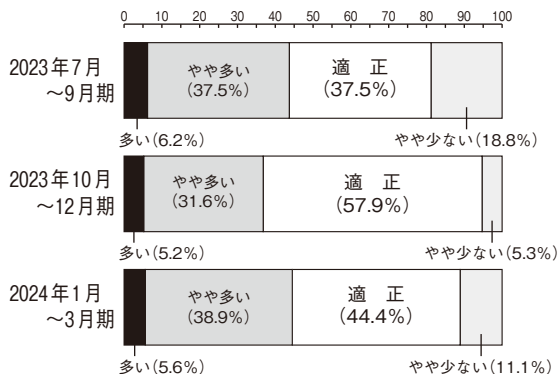
期間	項目	新 車	中 古 車
2023年4月~6月		3,484	1,637
7月~9月		4,080	1,244
10月~12月		3,971	1,071
2024年1月~3月		3,623	1,359

(富山県軽自動車検査協会 調べ)

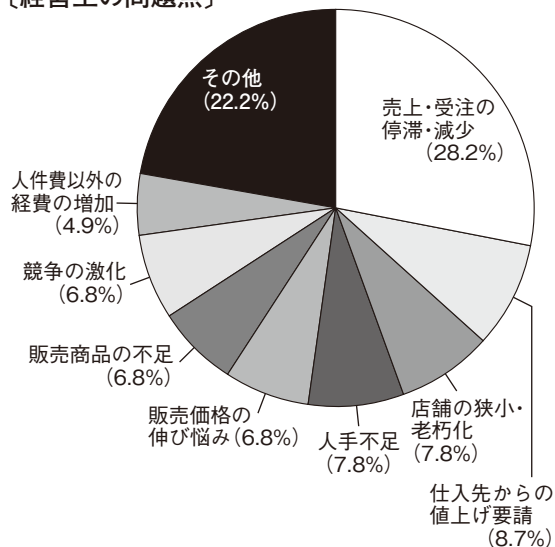
### 〔資金繰りの現状と見通し〕



### 〔手持ち在庫の動き〕



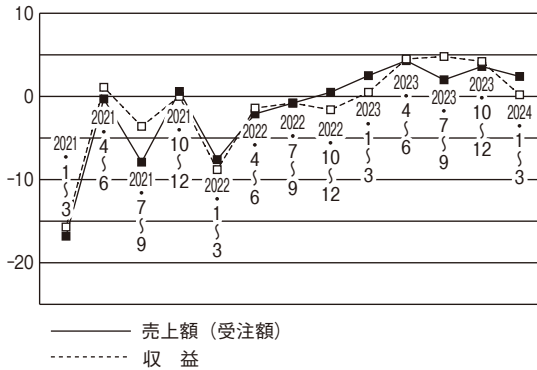
### 〔経営上の問題点〕





## 7. サービス業

〔売上額、収益の動き〕  
(対前年同期比)



現 状	見 通 し

### ◇概況

サービス業における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額2.4%、売上数量1.9%、収益0.2%といずれもプラスを維持したが、前期比では、売上額1.2ポイント減少、売上数量1.4ポイント減少、収益3.9ポイント減少といずれも前期比減少となった。

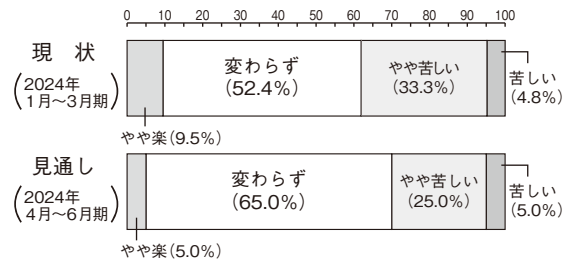
来期については、売上額で1.9%、売上数量は1.9%、収益は▲0.2%と、売上額、収益では今期比減少を予想している。

今期の売上額D.I.は、前期より22.8ポイント低下し5.0、収益D.I.も42.8ポイント低下し▲15.0となった。

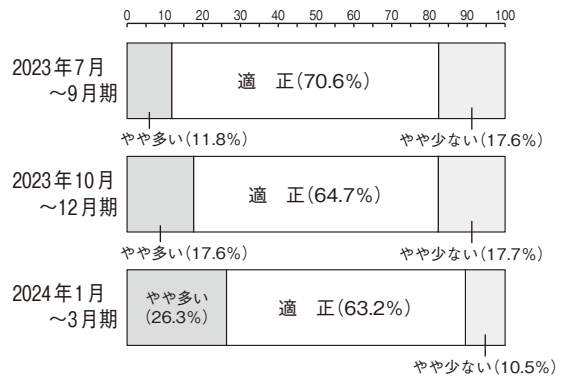
来期の売上額D.I.は、今期より5.0ポイント低下し0.0、収益D.I.も5.0ポイント低下し▲20.0を予想している。

経営上の問題点としては、前回2番目であった売上・受注の停滞・減少が18.9%(前期比2.6%増加)で最上位となり、次いで前回最上位の原(材)料価格の上昇が17.2%(前期比1.1%減少)となっている。

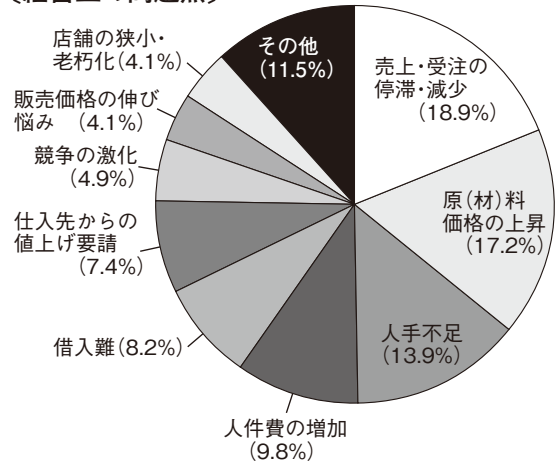
### 〔資金繰りの現状と見通し〕



### 〔手持ち在庫の動き〕



### 〔経営上の問題点〕



### 〔参 考〕

#### 〔高速自動車道利用状況〕

(単位：千台)

IC名	年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
高岡北 (能越)	2023年	353	368	443	438	463	430	449	469	435	356	434	410
	2024年	334	408	435									
小矢部東 (能越)	2023年	153	153	203	197	225	185	207	227	194	202	202	182
	2024年	158	179	200									
小 杉 (北陸)	2023年	234	237	299	288	309	286	299	324	292	304	299	281
	2024年	230	254										

各インター通過(乗降)台数の合計

能越道(高岡北IC～高岡IC間)：国土交通省富山河川国道事務所調べ

能越道(小矢部東)：能越自動車管理事務所調べ

北陸道(小 杉)：中日本高速道路(株)金沢支社調べ

## 8. 設備投資動向

### 設備投資の概要

今期において1,000万円以上の設備投資を実施したと回答した企業は18社となり、前回調査時より1社減少した。内訳では、社屋、工場、店舗等の新・増設や改修・保守等建物に関わるものが7社、生産等機械設備や車両の購入が6社、トラック等車両の購入が3社、システムの導入・更新が1社、その他1社であった。

今後3ヶ月の間に1,000万円以上の設備投資を予定している企業は26社で、今回調査時での実施企業数を8社上回り、前回調査時において実施予定と回答した企業数を11社上回った。

### 今後の設備投資の目的

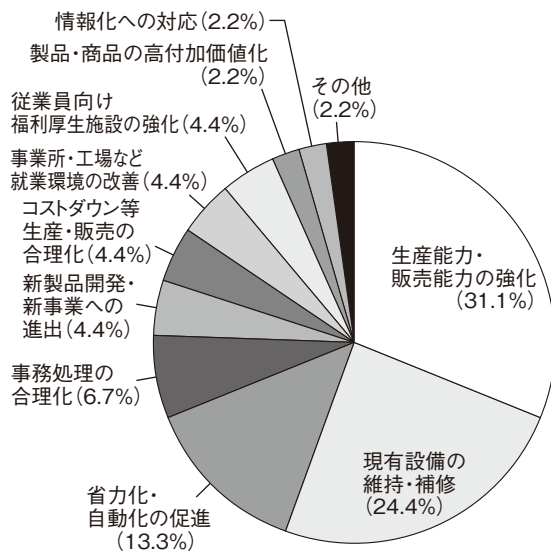
今後、設備投資を予定している企業の目的は

- ① 生産能力・販売能力の強化…………… (31.1%)
- ② 現有設備の維持・補修…………… (24.4%)
- ③ 省力化・自動化の促進…………… (13.3%)
- ④ 事務処理の合理化…………… (6.7%)
- ⑤ 新製品開発・新事業への進出…………… (4.4%)
- ⑤ コストダウン等生産・販売の合理化… (4.4%)
- ⑤ 事業所・工場など就業環境の改善… (4.4%)
- ⑤ 従業員向け福利厚生施設の強化…………… (4.4%)
- ⑥ 製品・商品の高付加価値化…………… (2.2%)
- ⑥ 情報化への対応…………… (2.2%)
- ⑦ その他…………… (2.2%)

今回の調査でも、『生産能力・販売能力の強化』が前回比3.6ポイント上昇の31.1%でトップとなり、2位の『現有設備の維持・補修』も前回より1.9ポイント上昇した。

また、前回調査では回答が無かった『従業員向け福利厚生施設の強化』が4期ぶりに回答があり、『事業所・工場など就業環境の改善』と合わせ、人手不足や人材流出防止への対応がうかがえる。

### 〔今後の設備投資の目的〕



### 設備投資の判断基準

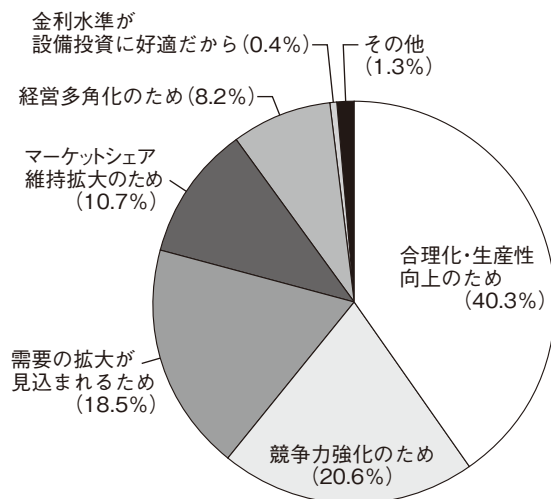
今後の設備投資に当たっての判断基準について

- ① 合理化・生産性向上のため…………… (40.3%)
- ② 競争力強化のため…………… (20.6%)
- ③ 需要の拡大が見込まれるため…………… (18.5%)
- ④ マーケットシェア維持拡大のため… (10.7%)
- ⑤ 経営多角化のため…………… (8.2%)
- ⑥ 金利水準が設備投資に好適だから… (0.4%)
- ⑦ その他…………… (1.3%)

今回もトップ項目であった『合理化・生産性向上のため』については、小売業を除く業種で判断基準のトップ項目となり、前回比2.4ポイント上昇した。

また、『経営多角化のため』が前回比3.5ポイント上昇し、卸売業、不動産業を除く各業種においてはそれぞれ8%~10%の回答率を占めており、新規事業への参入や現状からの転換を検討されているものと推測される。

### 〔設備投資の判断基準〕



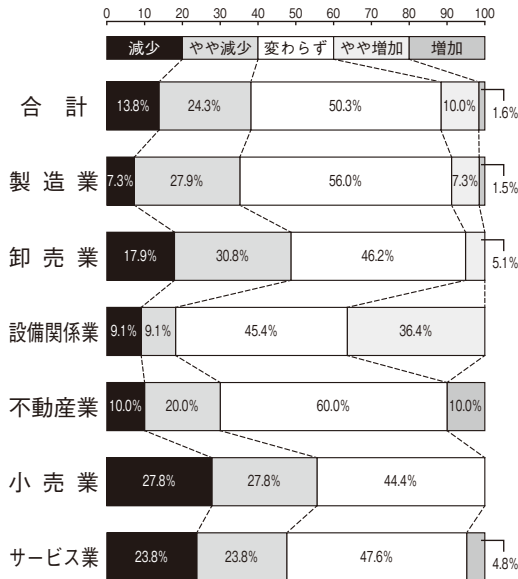
# 特別調査

2024年3月1日から3月21日にかけて、対象企業223社に対し、「令和6年能登半島地震の影響」および「今後3年間における経営上の関心事」について特別調査を実施した。回答があったのは189社で、回答率84.8%であった。

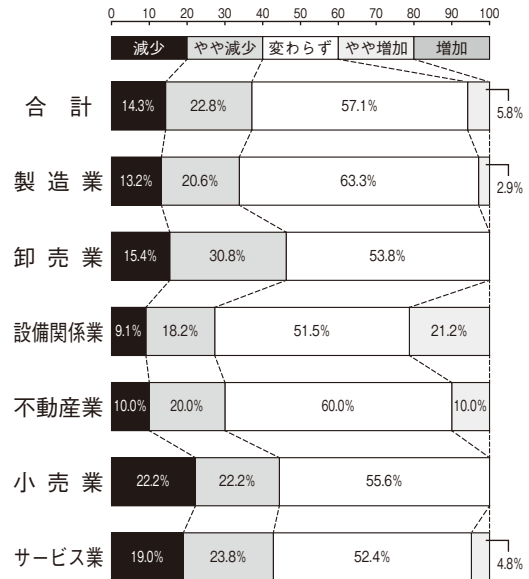
## 〔1. 令和6年能登半島地震の影響〕

### 現 状

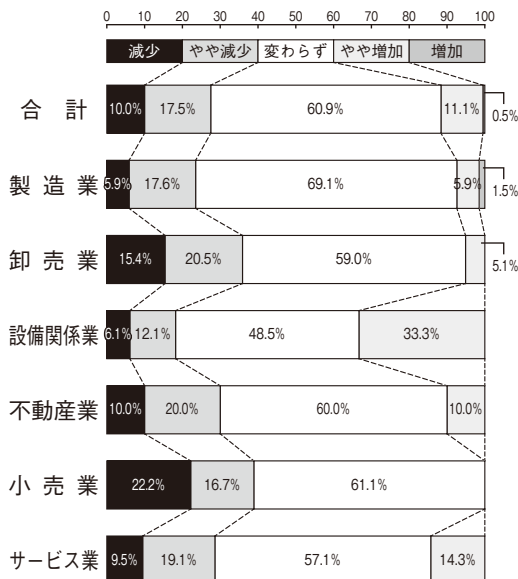
#### 〔売上額〕



#### 〔収益〕



#### 〔仕入額〕



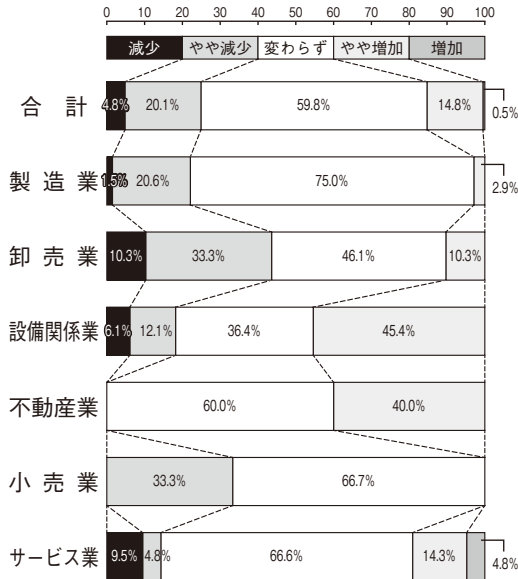
#### ◇概 況

全業種、自社に対しての影響は「変わらず」との回答が多く、売上額で50.3%、仕入額で60.9%、収益で57.1%であったが、卸売業、小売業、サービス業においては、売上額、収益において「やや減少」「減少」との回答率が他業種より高くなっており、地震後の自粛ムードによる消費の低迷等が影響したものと推測できる。

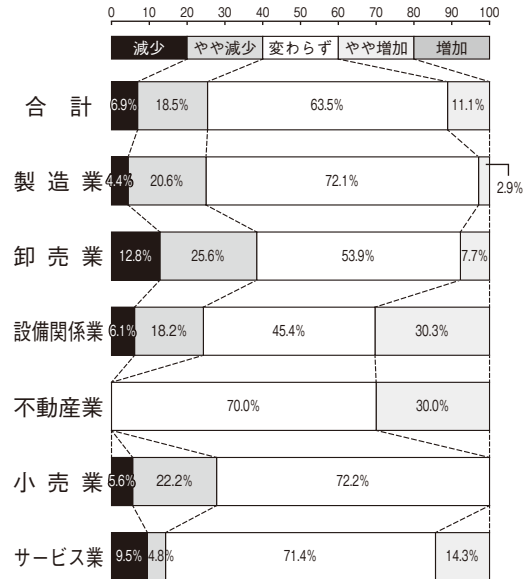
また、設備関係業（建設業、木材等）では、売上額、仕入額、収益とも「増加」または「やや増加」との回答率が他業種より高くなっており、地震の影響（復旧復興関連等）による受注増加がうかがえた。

## 今後の予想

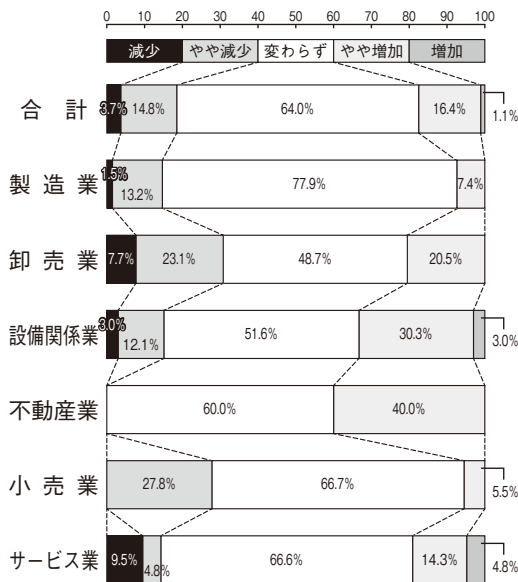
### 〔売上額〕



### 〔収益〕



### 〔仕入額〕



### ◇今後の影響(予想)

今後の影響についても、全業種ともに「変わらず」との回答が最も多く、売上額、収益については各業種とも「やや増加」「増加」が現状より回答率が高く、「やや減少」「減少」が現状より回答率が低くなっていることから、今後の業況回復が期待できる。

特に、不動産業については、売上額、収益ともに「やや減少」「減少」の回答が無く、「やや増加」「増加」の回答率が他業種より高くなっていることから、景気回復による不動産取引の活発化のみならず、地震の被災者向けの移転、代替物件等の仲介増加等がうかがえる。

また、小売業については、売上額、収益ともに「やや増加」「増加」の回答がなく、今後も厳しい見通しであることがうかがえる。

## 〔2. 今後3年間における経営上の関心事について〕

### ◇概況

今後3年間における、経営上の関心事についてのアンケートでは、2年前の調査と同様「原材料価格の高騰」が最も多くなったが、回答率は前回より約8%低下した。

2番目に多いのは、前回調査では第3位であった「販売価格への転嫁(値上げ)」となり、回答率も前回並みであった。

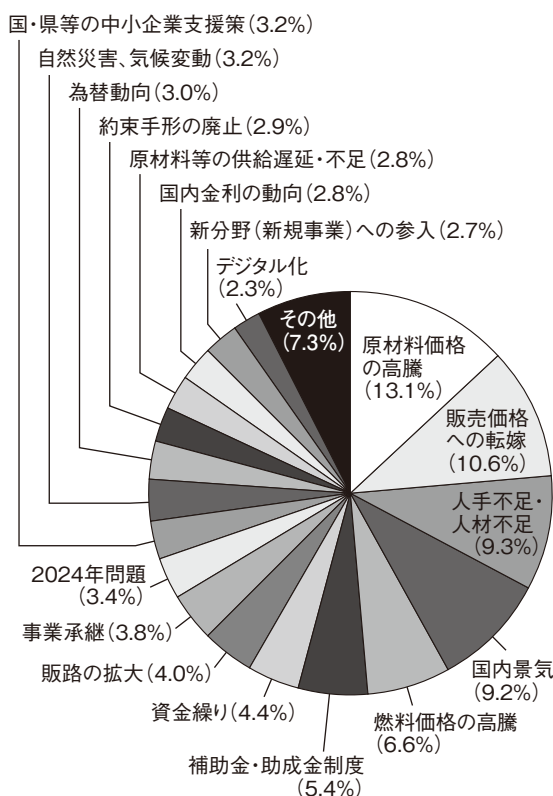
次いで「人手不足、人材不足」が前回より約3%上昇となり第3位となったほか、「資金繰り(資金調達)」「事業承継」「約束手形の廃止」「国内金利の動向」「新分野(新規事業)への参入」「デジタル化」が前回より回答率が高くなった。

また、前回の回答選択肢になかった「補助金・助成金制度」「販路の拡大(商談会、海外進出等)」はいずれも10位以内となり、関心の高さがうかがえた。

### 経営上の関心事(複数回答(5つ以内)あり)

- ① 原材料価格の高騰……………(13.1%)
- ② 販売価格への転嫁(値上げ)……………(10.6%)
- ③ 人手不足・人材不足……………(9.3%)
- ④ 国内景気……………(9.2%)
- ⑤ 燃料価格の高騰……………(6.6%)
- ⑥ 補助金・助成金制度……………(5.4%)
- ⑦ 資金繰り(資金調達)……………(4.4%)
- ⑧ 販路の拡大(商談会、海外進出等)……(4.0%)
- ⑨ 事業承継(後継者問題、事業譲渡等)……(3.8%)
- ⑩ 2024年問題……………(3.4%)
- ⑪ 国・県等の中小企業支援策……………(3.2%)
- ⑫ 自然災害、気候変動……………(3.2%)
- ⑬ 為替動向(円安・円高)……………(3.0%)
- ⑭ 約束手形の廃止……………(2.9%)
- ⑮ 原材料等の供給遅延・不足……………(2.8%)
- ⑯ 国内金利の動向……………(2.8%)
- ⑰ 新分野(新規事業)への参入……………(2.7%)
- ⑱ デジタル化……………(2.3%)
- ⑲ その他……………(7.3%)

### 〔経営上の関心事〕



### ※その他

インボイス制度・電子帳簿保存法、中国の景気、脱炭素化、米国の景気、ロシア・ウクライナ情勢、企業の買収、アジアの景気、日中・日韓・日朝関係、その他の国々の景気、賃上げ水準(賃上げ問題)、国内株価動向、少子化問題、震災復興等

# 「高岡信用金庫ケイエール」について

「高岡信用金庫ケイエール」は、「経営者の皆さまにエールを送る」というコンセプトの下、信用金庫業界独自のプラットフォームとして、信金中央金庫等が開発した事業者様向けのポータルサービスです。

本サービスにより、弊庫と地域の事業者様をデジタルで繋ぎ、信用金庫の強みとする「Face to Face」と「デジタルの力」を融合した新たな中小企業支援を提供して参ります。

お気軽にご相談ください。

## 記

### 《 高岡信用金庫ケイエール の特徴 》

#### 1. 主な機能について

主な機能としては、①資金繰り把握、②電子請求書（インボイス制度、電帳法に対応）、③電子ファイルの共有・保存、④外部連携コンテンツ、⑤経営相談窓口、⑥情報発信、⑦アラート機能があります。

#### 2. 資金繰り把握の強化

資金繰り把握機能により、日々の資金繰りを「見える化」でき、膨大な入出金データを簡単に管理・把握できます。

#### 3. 適格請求書の発行、改正電子帳簿保存法に対応した電子保存等

電子請求書機能等により、2023年10月より施行されたインボイス制度にて必要な適格請求書等の発行が可能です。また改正電子帳簿保存法に対応した保存様式にて、電子取引で発生、またはスキャナで読み取った請求書等の保存が可能です。

#### 4. バックオフィス等のDX化

外部連携コンテンツにおいては、別途利用料が必要なものもありますが、勤怠管理、経費精算、給与計算、人事労務、電子契約等、様々な分野のサービスを利用可能です。

本件に関するお問い合わせ先

高岡信用金庫 融資部 TEL：0766-23-1224

E-mail：yuusi@takaoka-shinkin.co.jp

◆当金庫のインボイス制度への対応につきましては、下記アドレスよりホームページをご覧ください。



〒933-8611 高岡市守山町68番地

TEL 0766-23-1222(代表)

<https://www.shinkin.co.jp/takaoka/>